

氏 名	こ ぼり えい こ 小 堀 栄 子
学位(専攻分野)	博 士 (社会健康医学)
学位記番号	論社医博第 1 号
学位授与の日付	平成 18 年 9 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項該当
学位論文題目	Prevalence and correlates of sexual behaviors among Karen villagers in northern Thailand (タイ北部カレン族の性行動とその関連要因)
論文調査委員	(主 査) 教授 西 淵 光 昭 教授 中 原 俊 隆 教授 松 林 公 蔵

論 文 内 容 の 要 旨

背景：タイの北部上部地域は東南アジアのエイズ流行地の1つである。その経済中心都市チェンマイには、国の経済発展を背景に、周辺山岳部に居住する少数民族が労働や教育の機会を求めて移動してくる。山岳少数民族は歴史・言語・文化などが異なる10あまりの民族からなるが、近年、こうした人々の HIV 感染及びそのリスクが報告されている。タイの山岳少数民族の中で最大人口を占めるカレン族は、保守的性規範をもつことで知られ、婚前及び婚外の性交渉は儀式による浄化が必要な違犯行為とされている。しかしキリスト教の普及によって儀式の伝承者が失われるなど、性規範の弱体化が指摘されている。

目的：本研究は、タイ北部の山岳地帯の村に居住するカレン族の村人において、HIV 感染リスク行動及びそのリスク要因を明らかにすることを目的とし、婚前・婚外・女性セックスワーカー（FSW）との性行為などについて調査した。

対象：調査対象の2村に居住する15-54歳の男女全員を対象とした。調査対象村は、村の開発レベルが性行動に影響することを仮定し、舗装道路・電気のある村とない村をそれぞれ選んだ。

方法：質問票作成に先立ってフォーカスグループインタビューを実施し、対象者の概要を把握した。その結果についての現地調査チーム内でのディスカッションを踏まえ、質問票をまずタイ語で作成し、パイロットテストを実施した。質問文の表現方法などを修正のうえ、カレン語に翻訳した。カレン語への翻訳は、カレン族出身のヘルスワーカーでインタビュアーとして調査に参加した複数人の間で、訳文の確認・合意のもとで行った。非識字者が多く、面接は基本的に他記式で行った。しかし、性規範、性行動、薬物使用経験など、プライベートな質問に関しては自記式で回答できるように、回答用紙を別に用意した。非識字者に配慮して、回答用紙には文字やアラビア数字を使わず、代わりに村で観察された動植物のイラストや単純な幾何学模様を用いた。

結果：566人（A村371人、B村195人）から回答を得た。回答率は81.9%であった。95%が非伝統的性行為は受け入れられないと回答した。婚前・婚外の性交経験者は性交経験者の10-20%、FSW との性交経験者は男性の性交経験者の12.6%であった。婚前性交経験者はキリスト教徒または町で働いた経験がある者に有意に多く、婚外性交経験者はA村または過去1年間に薬物を使用した経験がある者に有意に多かった。またFSW との性交経験者（男性のみ）は未婚者、非農業従事者あるいは町で働いた経験がある者に有意に多かった。既婚者のおよそ80%がこれまでに一度も配偶者との性交渉でコンドームを使用したことがなく、3分の1近くが異性の恋人またはFSW との性交渉（男性のみ）で一度もコンドームを使ったことがなかった。男性では、性感染症の罹患歴のある者とFSW との性交経験のある者との間に有意な関連が見られた。

考察：伝統的性意識はいまだ堅固なものの、両村で婚前・婚外などの非伝統的性行動がみられた。町での労働経験や町へのアクセスの利便性など、町と村の間の移動性の高いライフスタイルが伝統的性行動に影響することが示唆された。FSW との性交経験をもつ男性は、一般タイ人と比べると少ないものの、そうでない男性よりも性感染症罹患歴のある場合が多く、HIV 感染流行地に位置するカレン族のコミュニティーにも、その開発レベルに関わらず、HIV 感染流行の可能性があることが示唆された。

論文審査の結果の要旨

カレン族はタイの山岳地帯に住む10余りの少数民族の1つで、タイ人とは異なる歴史・文化・言語を持つ。第二次大戦後の政府の統合・福祉政策でここ数十年間にタイ社会とのつながりを深め、それに伴う HIV 感染リスクの高まりが示唆されるが、実態はほとんど不明であった。そこで、カレン族の性行動とその関連要因を明らかにすることを目的として本研究を実施した。

対象者は山岳地帯の村に住む15-54歳のカレン族男女で、開発レベルの異なる2つの村の住民を対象に、面接質問票調査による横断調査を実施した。

カレン族の伝統的性規範で「違反」とされる婚前性交渉、婚外性交渉、及び売春者との性交渉が10-20%の村人に見られた。またそれら非伝統的性行動は、町への出稼ぎ経験など、タイ社会との接触のある者に有意に多かった。性感染予防行動を取る者の割合は一般に低いが、売春者との場合で特に低く (<30%)、売春者との性交渉経験を持つ者では性感染症罹患歴も有意に多かった。

本研究結果から、カレンの伝統的性規範はタイ社会との接触によって緩みつつあること、売春者との性交渉から HIV がこの集団に入り込む潜在的リスクが存在することが示唆された。

以上の研究は、これまで実態が不明であった山岳少数民族における HIV 感染リスクの存在を示唆し、感染侵入阻止のための予防対策が急務であるという社会医学的に重要な事実を明らかにしたものである。したがって、本論文は博士（社会健康医学）の学位論文として価値あるものと認める。

なお本学位授与申請者は、平成18年9月4日実施の論文内容とそれに関連した学識確認のための試問を受け、合格と認められたものである。